



We serve

IWATA LIONS CLUB REPORT

[2019.7~2020.6]



2月22日(日) 書道展 アピタ磐田店にて

国際テーマ

WE SERVE(われわれは奉仕する)

334複合地区スローガン

「“We Serve” 心を合わせ多様な奉仕」

334ーC地区スローガン

「愛と光の身近な奉仕 ライオンズスピリットで^{あした}未来を築こう」

磐田ライオンズクラブ

スローガン 「新しい出会いをたいせつに 心ひとつに we serve」

努力目標 「たのしい例会にしよう」

2020 6

会長挨拶

色々な事があったこの1年でした。
新型コロナウイルスによる今迄にない例会の中止。アクティビティーが中止になり、思っていた半分位しか出来ませんでした。

CN62の大阪大学西田幸二様のiPS細胞の講演会は、大石ガバナー・近隣クラブからも出席を頂き盛況のうちに終わりました。

書道展も会場をアピタに変更して行い、大勢の市民の皆様に見て頂き大変好評でした。又、軽トラ市のサンタパレードも大勢の方に参加頂き、そして全国版ライオン誌にも掲載されました。

新型コロナウイルスに関しては、磐田市役所にマスク20,000枚の寄付を行いました。そして会員拡大ですが、うまくいかず大変申し訳なく深くお詫び致します。

私1人では何も出来ず三役・理事の皆様のご指導のお陰だと感謝しております。支えて頂いた会員の皆様・事務員さんには心よりお礼を申し上げます。この1年間ありがとうございました。



会 長
L. 鈴木富二夫



幹 事
L. 村松正浩

若造幹事が会員の皆様にご指導頂き、四苦八苦しながらやっと一年終わろうとしております。夏祭りの中止に始まり、CN62事業がらみで「想定外」の続発、果ては新型コロナ禍による諸事業・例会の中止。トラブル続出の一年でしたが、逆に多くを学ぶ一年でもありました。特に、先輩ライオンから「こういうときだからこそライオンズが動かないでどうする!」という叱咤の言葉は、コロナ禍により全てを中止する流れの中で途方にくれていた私の目を覚まさせていただいた一言でした。執筆時ではまだ収束の目処も立っていませんが、どんなときでもライオンズを忘れずに活動していけるライオンになるべく、残りの任期を勤め上げたいと思います。



会 計
L. 斎藤道夫

今まで誰もを経験した事がない新型コロナウイルスの感染拡大に伴い強く感じた事は、平時に何をやったかでは無く今回の様な有事(戦争だけではない)にこそLCの真価を発揮しなければいけないのではないかなと言うことです。こんな時に「何かできないか」ではなく、こんな時だからこそ「愛の手をさしのべなければならぬ」のです。

マスクは寄贈しましたが一般人や民間企業に先を越された事は奉仕団体として反省すべき点だったと思わずにはられません。LCは労力奉仕は勿論、金銭を有効に使った奉仕も出来ます。

例会では危機管理の勉強もしています。感染防止の為、人と人との距離はとっても奉仕の精神に距離をおかないよう心掛けたいと思います。



ライオン・テマー
L. 河原崎 誠

例会や理事会等の事前の設営、準備を行い、各会の運営が円滑に進行するように心がけてまいりました。今年度より理事会の主要会場であったワークピアの特別会議室が改修により毎回テーブル・椅子の配置・片付けが必要となりました。理事会の際には他の理事の方も定刻の30分前より配置、閉会後の後片付けを手伝ってくださり助かりました。また、理事会、例会の資料等を事前に準備された事務局の伊藤さんには大変お世話になりました。不十分なところもあったかと思いますが、会員の皆様、事務局の協力ありがとうございました。



テール・ツイスター
L. 小笠仁子

メンバーのご協力のもと、1年テールツイスターの役を終えることが出来ましたこと、心から感謝申し上げます。時間がなくて焦ったり、逆に時間配分を間違えて早く終わり過ぎたりと、メンバーにはご迷惑をおかけしましたことも、多々あったかと思えます。この紙面をお借りしてお詫び申し上げます。改めてありがとうございました。



会員委員長
L. 高田ちはや

一年間、新会員拡大に向けて、様々な形でご協力いただきましてありがとうございました。
後半はコロナウイルス感染症の影響もあり、積極的に拡大活動を行うことができなくなってしまい、結果として会員増大へ繋げることができませんでした。ただ、隔月に開催した、拡大会議と新会員勉強会には多くのメンバーにご参加いただき、会員拡大への意識向上、ライオンズクラブに所属する意義はご理解いただけたのではないかと思います。いつの時代においても、社会の中で必要とされる奉仕団体であり続けるために、引き続き会員拡大へのご協力をよろしくお願い致します。



会則接待諮問委員長
L.堀内 豊

本年度、会則においては特に変更点や問題点はありませんでした。例会ではゲストと同じテーブルに委員会のメンバーが必ず座り、会長のスローガン「新しい出会いを大切に…」のもと磐田ライオンズクラブの「おもてなし」に注力してまいりました。

1月、第2の担当例会では1,500回記念例会という事で過去に前例のないくす玉割で新春を大いに盛り上げる事ができました。

今年度は新型コロナウイルスの影響で後半は事業が悉く中止になりあまり活動出来ませんでした。来期は思い切り活動出来る事を願っています。

三役の皆さん1年間お疲れ様でした。

最後に委員会のメンバー、会員の皆様、伊藤さんのご協力に感謝申し上げます。



財務LCIF出席委員長
L.高塚 昌一

今年度後半は予想もしなかったウイルス禍となり、緊急に市へマスク2万枚を寄贈しましたが、財務的には主に予備費を充当することとなるでしょう。例会開催もままならず、例会出席の大切さを認識した次第です。来期は全会員が楽しく顔を合わせることが出来る一年となりますように。なおLCIF 1000ドル基金には4名の方が協力をして下さいました。ありがとうございました。



大会計画委員長
L.石井 明雄

まさに有事の事態となってしまうていますが、思えば夏の家族会の頃は何の心配もなく、みなさまとご家族で楽しめた夢のような時間だったのではないのでしょうか。またクリスマス会でも、美しい歌声に酔いしれ、酒にも酔い…どちらも、委員会メンバーをはじめ会員各位のご協力により思い出とすることができました。

残すは6月のさよなら例会ですが、このような事態で未定というのが現状でございます。皆さまの健康をまず第一に、一刻も早く事態の収束を期待するとともに、ライオンズの奉仕の精神で、今できる活動を考えて参りましょう。

最後になりますが、私の体調不良などにより、副委員長には多大なるご迷惑、ご協力を賜り、この場を借りてお礼申し上げます。



献眼献腎献血委員長
L.齋藤 滋子

始まりは、「台風で夏祭り中止」の雷鳴でしたが、夏祭りの準備のおかげで早期から委員会内の結束が強まったように思います。急遽決まった“ふれあい広場での献眼登録運動”では皆様に大変お世話になりました。

予定していた活動はあまり出来ませんでした。今期から始めたヘアドネーションは順調なスタートを切り、27名の貴重な髪が集まりました。残念ながら、2月から受け入れ側の休止により、現在は停止状態です。このような状況ではありますが、皆様のご協力に深く感謝いたします。ありがとうございました。



環境福祉委員長
L.田中 洋介

とある日、「ライオンズパークにふと立ち寄ったら花が枯れてたからはずしといたよ」またまた別の日「草刈の時にさ～、皆が楽になるように大きい機械持ってくるよ」またまた別の日「チップ敷均したところ草が減って歩きやすくなったし今度は厚めのチップでもする～？」更にまたまたある日「水やり来たらさ～ゴミ散らかってたしかたずけといたよ～」Lメンバー各々パークに対する愛をお持ちの事が沢山垣間見ることが出来ました。この事業は継続されていきますので末永くライオンズパークに愛を皆さんで注いでいきたいですね。

1年間ありがとうございました。



青少年・YCEクエスト委員長
L.村松 由季子

国際平和ポスターコンテスト、青少年健全育成書道コンクール等、磐田ライオンズクラブメンバーは勿論、市内小中学校の協力があって成り立つアクティビティが続きました。子供達の笑顔の為に多くの方々が惜しみなく力を貸してください感謝、感謝の一年でした。

レオクラブ事前検討プロジェクトも3年間の活動が実を結び、新たな局面を迎えています。

アクティビティ・例会より

CN 62 記念講演 2月8日(土)

角膜移植はドナーと家族、患者、医師、アイバンク職員の意向やタイミングが合わないこと、そして短時間に関係者へ大きな負担をかけるという現状について、以前より寂然としたモノを感じていました。テレビでiPS細胞を使った角膜移植研究のニュースを見て「コレだ!」と思いました。時代に合わせて進化をしながら、守るべきものを守るライオンズクラブとしては、この移植技術を後押しすることが、患者のために今やるべきアクティビティだと感じました。この想いをCN 62 記念講演として実現し、会員のみならず近隣クラブや一般市民等多くの方々に移植を手掛けた西田教授の語る今と未来を直接届けることが出来ました。聴講頂いた大石ガバナーを通じ世界中のライオンズに広がりを持つアクティビティとなれば良いと思います。



幹事 L.村松正浩

青少年健全育成書道コンクール 2月22日(土)～24日(月)

市内の小学校3年生～中学3年生を対象に、会長の肝いりで3年ぶりに行われた青少年健全育成書道コンクールは、大橋速宏先生に各学年への課題の設定からご協力をいただきました。これまで利用していた文化振興センターを諸々の理由から利用不可能と判断し、アビタ磐田店内の空きスペースを無料で貸していただきましたが、元来が展示用スペースでは無い為、展示方法を一から考えての準備となりました。

磐田市内の全小中学校や書道塾にちらしを配布して出品依頼をした結果、市内19校1077人の児童・生徒の皆さんから作品を応募していただきました。今回、応募のあった作品は、これまでに比べて中学生の出品割合が多く、大人もビックリする程レベルが高い見応えのある作品が多かった様に思います。実際、作品の審査では、甲乙つけ難い作品が並び、受賞者の選定に苦労しました。

1週間前に展示の下準備をし、展示当日2/22(土)は朝から多くの会員の皆様にご協力をいただき、パイプでやぐらを組む作業→脚立に乗ってクリアファイルに入れた応募全作品をパイプの上から吊るす作業を突貫で行いました。全く何もない空きスペースに指示通りのやぐらが組み上がり、作品が順次展示されていく様は、メンバーの質の高さを感じられ本当に頼もしい限りでした。

初日の13:00～特別賞入賞者の表彰式を行い、2/24(月・祝)昼までの展示となりました。丸二日間での来場者は、把握できた範囲内だけでも879名に上りました。23日の静岡及び中日新聞の朝刊に写真入りでの記事掲載に加え、来場者のSNSによる情報拡散が来場者多数となった大きな原因と思われる、様々なイベントでの口コミの威力を改めて感じると共に、子供に対する保護者の関心の高さが伺えました。参加した子供達は、嬉しさと気恥ずかしさの混じった表情で保護者や友人達と言葉を交わし、温かい気持ちになれたアクティビティでした。ご協力、ありがとうございました。

青少年YCEクレスト委員長 L.村松由季子

磐田市役所にてマスク寄贈
4月28日(火)

新型コロナウイルスの影響で当クラブは現在活動が停止している中、何か社会貢献できないかと模索していました。磐田市役所にマスク現状を問い合わせところ、医療関係者のマスク不足が深刻とお聞きしました。そこで、メンバーの仕事関係で不織布のマスクを20,000枚購入し、4月28日(火)磐田市役所に寄贈しました。多くの枚数を寄贈したので、市長はじめ健康増進課の方々には大変感謝され、医療関係者及び困っている方々に配布させていただきますとの返事を頂きました。

1月第1例会
三笑亭可風師匠の落語で新年初笑い1月第2例会
年月を積み重ねて1500回記念例会を迎えました2月第2例会
ピアノ 正浩氏とサクソホン佐藤文弘氏の演奏4月第1例会
335複合アラート委員長 松原ライオンズクラブL.坂本恵市の講話
当クラブとして、巨大地震に備えて何か準備することはないかと考えさせられるライオンズパーク草刈り
3月15日(日)

桜開花前に市民の皆様が、気持ち良く桜を見て頂けますようにと、ライオンズパークの草刈りと花の植え替えを行いました。

新規会員 ご挨拶



L.田島 枝里子(20.2.20入会)

初めまして。私は磐田市池田にて、株式会社花福と言う屋号で花屋の商売をやらせていただいております、田島枝里子と申します。

2006年より、個人からスタートし2007年三月に法人化。今年おかげさまで、14年目になります。花の業界にはかれこれ、22年関わっております。「好きこそものの上手なれ」幼いころからの、なりたたい仕事につき花の魅力を皆さんにお伝えできましたらと、思っ日々楽しく仕事をさせていただいております。磐田で商売をさせていただいて、微力ながらも社会貢献させて頂けるよう、勉強したく思っております。ご指導の程よろしくお願い致します。

編集後記

MC委員長
L.加藤克巳

今年度3回目の会報となりました。1年を振り返ってみれば、新型コロナウイルスの影響で後半の例会・アクティビティが中止に迫られました。しかしながら、それ以前行われた人々の心を感動させた数多くのアクティビティを取材できた事大変うれしく思います。

メンバーの社会貢献があったからこそ、活動内容を人々に発信することが出来ました。一年間本当にありがとうございました。